

(8) その他花き

○ ガーベラ

主要病害虫別防除方法

農薬による防除については、栽培ステージ、病害虫の発生状況等に応じて、散布、灌注、土壌消毒などを行う。
 なお、農薬による防除の際は、農薬登録内容や使用上の注意等を遵守して実施する。

(農林水産省農薬登録情報提供システム <https://pesticide.maff.go.jp/>)

病害虫名 (病原体)	農薬によらない防除
疫病 (<i>Phytophthora</i>)	①ほ場が過湿にならないよう排水を良くしたり、高畝栽培とする。また、地際への灌水は極力避け、株元が乾燥した状態にする。 ②発病株は早期に取り除き、適切に処分する。 ③葉かきをこまめに行い、株元の通風を図る。 【参考事項】 植物残さ上に形成される卵胞子が土壌中で生存し、伝染源となる。次作において、卵胞子が発芽し形成された遊走子のうから遊走子を遊出して水媒伝染するので、降雨の多い時期や、ほ場が冠水した場合などに多発する。
ミカンキイロアザミウマ	①未発生施設では苗の移動に伴う持込みに注意する。 ②施設の開口部に目合い0.4mm以下の防虫ネットや0.8mm目合いの赤色系ネットを張り、侵入を防止する。 ③不必要な株、花及びほ場内の雑草は本種の発生源となるので、速やかに処分する。 ④ほ場周辺の雑草にも寄生するので、除草する。 ⑤発生施設では改植時に10日以上高温時に密閉して蒸込みを行い、成虫や蛹を死滅させる。 【参考事項】 農作物、雑草を問わず多種類の植物、特に花に寄生する。 本種は花卉や芽の隙間に生息しているため、農薬は丁寧に散布する。
マメハモグリバエ	①ほ場周辺の雑草にも寄生するので、除草を行う。 ②施設の開口部に目合い0.6mm以下の防虫ネットを張り、成虫の侵入を防ぐ。 【参考事項】 キク科やアブラナ科の雑草(ノボロギク、チチコグサモドキ、ナズナなど)は主な発生源となる。

○ ポインセチア

主要病害虫別防除方法

農薬による防除については、栽培ステージ、病害虫の発生状況等に応じて、散布、灌注、土壌消毒などを行う。
 なお、農薬による防除の際は、農薬登録内容や使用上の注意等を遵守して実施する。

(農林水産省農薬登録情報提供システム <https://pesticide.maff.go.jp/>)

病害虫名 (病原体)	農薬によらない防除
根腐病 (<i>Pythium</i>)	①作付け前に栽培ベッドの植物残さや残土を片付け、洗浄する。 ②作付け前に培養液タンクと栽培ベンチの殺菌を行う。 ③夏季の施設内の気温や培養液タンクの液温をできるだけ低く管理する。 ④施肥量は過剰にならないようにする。 ⑤軽い萎凋症状が見られた発病株は、鉢土とともにただちに廃棄する。 【参考事項】 3種類の高温性 <i>Pythium</i> 属菌が主な病原菌である。 発生時期は6～10月で、7～8月に多発する。特に、35℃前後の高温と多湿条件で発病が多くなる。 伝染源は、被害残さ、土壌、ミニバラなどの前作物で、土壌伝染と水媒伝染(病原菌の遊走子が水で移動する)をする。 ミニバラ、バラ、ガーベラ、ペゴニア、カランコエ、キクなど多数の植物に発病し、被害を与える。
コナジラミ類	①施設周辺の雑草を除草する。 ②施設の開口部に目合い0.4mm以下の防虫ネットを張り、成虫の侵入を防止する。 【参考事項】 オンシツコナジラミとタバココナジラミ類が寄生し、排泄物によりすす病が発生する。 初期防除に重点をおく。 タバココナジラミは薬剤感受性などが異なるバイオタイプが存在し、遺伝子診断で識別可能である。

○ シンビジウム

主要病害虫別防除方法

農薬による防除については、栽培ステージ、病害虫の発生状況等に応じて、散布、灌注、土壌消毒などを行う。

なお、農薬による防除の際は、農薬登録内容や使用上の注意等を遵守して実施する。

(農林水産省農薬登録情報提供システム <https://pesticide.maff.go.jp/>)

病害虫名 (病原体)	農薬によらない防除
モザイク病 (ORSV、 CymMV)	①鉢や用土は新しい物を使う。 ②病徴を生じた株は除去し、適切に処分する。 ③作業に使用するハサミなどは、こまめに消毒する。 【参考事項】 オドントグロッサム輪点ウイルス (ORSV)、シンビジウムモザイクウイルス (CymMV) とともに汁液伝染する。株分け、移植、採花などの作業時に、手やハサミなどの器具及び作業台などの汚染により接触伝染する。
軟腐病 (細菌)	①作業に使用するハサミなどは、こまめに消毒するとともに、植物体を傷つけないように注意する。 ②鉢や用土を再利用するときは消毒を行う。 ③発病株は早期に取り除き、適切に処分する。 ④高温多湿、灌水過多を避ける。 【参考事項】 発病適温は 30℃前後で本病原細菌は高温多湿を好む。
疫病 (<i>Phytophthora</i>)	①発病株は早期に取り除き、適切に処分する。 ②多湿、灌水過多を避ける。 ③棚下に水たまりができないよう注意する。 ④戸外では長雨にあてない。 【参考事項】 病原菌の生育の適温は 22℃前後である。 戸外では梅雨期、秋期に長雨にあたると発生しやすい。
腐敗病 (<i>Fusarium</i>)	①鉢や用土を再利用するときは消毒を行う。 ②発病株は早期に取り除き、適切に処分する。 【参考事項】 通常土壌伝染するが、病株上の分生子の飛散によっても伝染する。